

2014 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [大泉町立西小学校] 担当教諭名 [渋澤 敏雄] (6年 84名)

交流相手国 [エクアドル]

海外学校名 [LEB Arejandro Sergio Bermeo] 担当教諭名 [Jhony Duche / 堀井 翔平(JICA)]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	日本・世界の文化を知ろう	30

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	お互いの国の文化・自然
絵に込めたメッセージ	お互いの国の文化・自然をキャンパスの左側から1月、2月、・・・12月と順に描きました。1月はお正月、2月はバレンタイン、3月はひなまつり・・・と描きました。そして、桜、梅雨、台風、富士山などの自然も描きました。相手校も同じように一年間の文化を描いてくれたので、同じ文化・違う文化の比較ができます。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・84名の児童が、手紙グループ、ビデオレターグループ、フォーラムグループ、壁画グループに分かれて、それぞれの得意なことをいかして交流活動に取り組むことができた。 ・相手校からの反応(手紙やビデオ)がきてから、国際交流をより身近に感じる事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に英語での交流なので、小学生の英語では伝えたいことが伝わらないというもどかしさを感じた。写真で何となくの様子は伝わるが、細かい説明には言葉が必要で、教員が英語に直す作業が必要であった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対する意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ・取組前は意識も意欲も低かったが、自分たちの発信に対して相手校からの反応があり、地球の裏側に相手がいるということが実感できると意欲的になった。 ・相手校の良さを発見すると同時に、自分たちの自己紹介や学校紹介を通じて、自分たちの良さを改めて見直す機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組前は見通しが立たず不安があったが、相手校の先生と連絡を密にとったことで、次第に取り組むことが明確になってきた。(日本語で連絡ができた。) ・相手校からの返信には毎回、教師も喜んだり驚いたり、考えさせられたりした。教師と児童が国際交流を共につくりあげていくという意識で取り組めた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	9月	・手紙グループやビデオレターグループ、フォーラムグループが自己紹介や学校紹介を作成する。	・最初に日本語で書き、それを英語に直すという作業を行った。初めてなので英語の定型文を用意して使ったので、無理なく取り組めた。	総合4
テーマ学習	9月 10月	・エクアドルの自然・文化についてインターネットで調べた。同時に日本の自然・文化についても調べた。	・エクアドルについてほとんど知識がなかったが、調べたことで少しいメージがもてた。外国籍の児童でスペイン語が話せる児童は特に意欲的だった。	総合8
構図決定	10月	・絵画グループが構図を話し合って決め、それを写真に撮ってフォーラムにアップした。	・相手校からフォーラムでエクアドルの紹介やビデオレターが届き、本当に交流しているんだという実感がわき始めた。	総合6
壁画制作	11月	・絵画グループが色塗りに取り組み始める。それと並行して手紙やフォーラムグループが絵画の説明を作り始める。	・各グループが協力して作業に取り組んでいる実感がもてた。他のグループの良さなどを認め合うこともできた。	総合10
鑑賞・振り返り	2月 3月	・全校朝会で絵画の紹介を行う。 ・絵画の説明を行い、感想や質問を話し合う。 ・卒業式の式場へ展示。	・返ってきた絵画を見て、感嘆の声が上がった。まるで自分の子が大きく成長して返ってきたような感慨があった。	総合2

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入 (A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	B	4	自己紹介や学校紹介を通して、自分たちの良さは何なのかを改めて考える機会になった。
異文化の理解	A	5	インターネットだけではわからない相手校や相手国の自然・文化を知り、自分たちとは異なる世界があるのだと実感できた。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	4	自分たちの英語で伝わること、伝わらないことを実感することができた。言葉で伝わらなければどうすればよいか考えることができた。
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	3	手紙・ビデオ・パソコンのそれぞれの良いところをいかすことができたが、各自のグループ以外の発信はできなかった。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	B	3	世界に交流相手がいるということは実感できたが、数回のやりとりと児童の英語力では関係を深めるところまではいかなかった。
協働する力 (役割分担・協力)	B	4	手紙・ビデオ・パソコン・絵画グループがそれぞれの役割を果たし、お互いに協力して発信していた。
学習を追究する意欲	B	4	一方的な調べ学習ではうまれにくい動機づけができた。相手がいるという双方向の交流学習は意欲を高めることができた。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	B	4	絵画という形に残る物で交流を完成させたことで、児童は達成感を味わうことができた。
作品を鑑賞する力	B	3	児童が絵画を見て質問を考えるというのは難しかった。絵画に同封されてきた説明の手紙を使って教師が投げかけを行った。